

DH講座で天野氏(阪大)が講演

「病原性に合ったブラッシング指導を」

臨床学術部は5日、天野敦雄教授(大阪大学歯学研究科予防歯科学)を招きスタッフ講習会「なるほどなっとく!」できるDH育成講座(むし歯と歯周病を許さない!)を開いた。歯科衛生士を中心に52人が参加した。

天野氏は、歯科治療は「削って詰める」から



「成功の力」はプロケアとセルフレケアと語る天野氏(5日、M&Dホール)

「健康管理医療」へと変わり、バイオフィルムの管理が重要になっていると強調した。歯肉縁上と縁下でのバイオフィルムの性質について基本的な知識を整理した上で、善玉菌と悪玉菌の均衡が崩れるマイクロバイアルシフトが起こることや、歯周病を発生・重症化

すると説明。う蝕と歯周病の誘発メカニズムから、バイオフィルムの病原性を鑑別した上で、病原性に合わせたブラッシング指導を推奨した。日々の口腔ケアの「主治医」は患者本人とし、ブラッシング指導のポイントは二人三脚が基本と述べた。消極的アプローチ(患者の望んでいるものだけ)をはじめ病状を納得させる説明力、結果を残せる技術など5つをおさへ、プロケアとセルフレケアの両輪を充実させることが成功の力基とした。

社保研究部

P重防の算定など解説

『歯科保険診療の研究』講習会

社保研究部は『歯科保険診療の研究』講習会(新しい歯周治療、口腔機能管理の流れ)を6月28日に開き、52人が参加した。講師は平尾清司社長、兵頭正道、金城隣各社保部員が務めた。

診療報酬改定で導入された歯周病重症化予防治療(P重防)、改編のあった小児口腔機能管理料・口腔機能管理料について症例を基に解説した。それぞれの治療や管理に関連する処置・検査の算定要件や疑義解釈にも触れ、解釈を深めた。質疑ではP重防の対象患者や適用症例、中長期的な治療の流れなど、歯周病治療の算定方法に集中した。講師は、P病名に加えG病名も治療対象となり、永久歯の歯数(乳歯は含まない)での算定となるなど注意点を

第27回 余技展開催のお知らせと作品出展のお願い

日時 2020年11月12日(木)～11月17日(火)11時～18時 最終日は12時まで
会場 谷町九丁目 ホルバインギャラリー (大阪市中央区上汐2-2-5)
作品種別 日常的に取り組まれている作品を募集します。
◇これまでの展示種目◇
絵画、書、写真、彫刻、陶芸、手芸、水墨画、俳画、絵手紙、ステンドグラス、アートフラワー、人形、染色、その他
※サイズは50号以内をお願いします
出展料 5,000円/1人 ※後日振込票をお送りします
募集締切 10月12日(月)までに同封の出展申込書をFAXにてお送りください。
※作品のお預かり: 10月26日(月)～11月6日(金)ご希望の日時をお知らせください
主催 大阪府歯科保険医協会/女性医師・歯科医師の会
問い合わせ 06-6568-7731 (担当・町原)

安倍政権が全世代型社会保障「改革」の目玉としているのが、75歳以上の高齢者の医療費窓口負担2割化や介護の利用者負担増だ。協会・保団連は負担増ストップのキャンペーンを進めている。署名活動の意義や成果について座談会形式で解説する。

コロナ禍で負担増

A 新型コロナの流行で患者さんが減って診療所の経営に苦勞している。感染を心配して受診を控えた患者さんには早く通院してもらいたいけど、収入の減った患者さんが治療を手控えていないか気になる。
B 患者さんの生活が苦しくなっているのに、政府は75歳以上の高齢者の窓口での負担を2割に引き上げようとしている。高

「ストップ患者負担増」署名

政治を動かす大きな力に
まずは待合に用紙設置を

街頭で署名協力を訴える役員(左)

「ストップ患者負担増」署名は、請願署名として国会に提出する。請願は国や地方公共団体に苦情や要望を申し出る権利で、憲法第16条で保障された国民の「請願権」の行使だ。
C 署名を国会に提出するには紹介議員が必要になる。協会では大阪選出の全議員に呼び掛けており、「保険で良い歯科」署名は立憲民主党と日本共産党の

国会議員が紹介議員を引き受けてくれた。自民や公明、維新議員は署名内容に賛同できないことなどを理由に拒否している。
A 国会での署名の扱いは。
B 請願は会期末の一括処理が通例となっている。審議終了となることも少なくないが、署名の数は世論を反映しており、政治を動かす力となって新たな立法や行政措置を促すこともある。
C そうそう。過去の「保険で良い入れ歯」運動では、全国的に署名が大きく広がり、義歯関連の診療報酬が大幅に引き上がったという成果につながった。

歯科医師への信頼

A 署名の意義は分かるが、診療中に取り組むのは難しい面もあるよ。
B 署名は国に要望を突きつける大きな武器だ。患者さんの声を集めて窓口負担増のストップに力を尽くすのも医療者の務めだと思う。まずは署名用紙を待合に置いてみてほしい。
C たくさん署名を集めている先生は窓口で患者さんに声をかけてお願いしているが、診療所の待合に用紙を置いておくだけでも協力してくれる患者さんは多い。
B 署名に取り組んでいると、「また負担が増えるんですか!」と言って用紙を持ち帰り、集めて来てくれる患者さん多いほど関心は高い。
C 窓口負担の引き下げは患者さんのためになることから、歯科医師への信頼につながるという効果もあるよ。
B 署名は国に要望を突きつける大きな武器だ。患者さんの声を集めて窓口負担増のストップに力を尽くすのも医療者の務めだと思う。まずは署名用紙を待合に置いてみてほしい。

ミャンマーの事情②
歯科

国際NGO 日本歯科ボランティア協会 理事長 長谷川 了

私がミャンマーに携わるきっかけは、父親にあります。父は軍人で、第2次世界大戦時にビルマに派遣されました。4年間ほどビルマで戦った後、運良く帰国を果たしました。しかし一方で、数多くの友人が現地で命を落としたそうです。当時、約30万人がビルマに派遣され、そのうち約19万人が亡くなったと聞きました。父は常々言っていました。「生きていく間に、ビルマで亡くなった戦友の慰霊に行きたい」と。しかし、その夢が叶うことはなく、57歳の若さで他界しました。優しい心に打たれた

父の遺志継ぎ慰霊へ

私は子どもの頃、毎日のように戦争の話聞きながら育ちましたから、父が亡くなった時に思ったのは「遺志を継いでビルマで亡くなった日本兵の慰霊をしよう」ということでした。そして20年前、初めてミャンマーに戦子どもの頃、毎日のように戦争の話聞きながら育ちましたから、父が亡くなった時に思ったのは「遺志を継いでビルマで亡くなった日本兵の慰霊をしよう」ということでした。そして20年前、初めてミャンマーに

を訪れたのです。専門の歯科関連ではなく、あくまで慰霊が目的でした。そこで心を打たれたのはミャンマー人の優しさでした。実はミャンマー行きを決めたものの、当時、私は何の伝手もありませんでした。ところが偶然、空港で一人のミャンマー人女性と知り合いになりました。女性は出産のために帰国する途中だったので、その家族が目的地までわざわざ案内してくれました。これは本当に助かりました。ミャンマー人は心が優しいなど心底思いました。感謝と尊敬の念を抱き